

**山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議
令和2年度遊佐沿岸域検討部会における意見と対応の方向性（主なもの）**

項目	意見・質問	対応の方向性（結果）
漁業関係	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の漁業協調策の検討のポイントとしては、①沿岸部での漁法の現状把握、②制限がかかる場合の代替漁法の検討、③漁業者がイワガキで利益を上げるためにはどう進めていくかの3点である。想定海域内での漁業について、専門家の意見を聞きながら検討を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度漁業協調策等検討会議（第1～3回）において検討を行った。 漁業への影響等を考慮し、想定海域を見直した。 引き続き専門家の助言を受けながら検討を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議などの機会を捉えて、洋上風力発電を地域振興に繋げていきたい。今後は専門的な意見も必要になるので、水産振興課からも助言をいただき、継続できる鮭のふ化事業に繋げていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業協調策等検討会議において、遡河性魚種も含め、漁業影響調査（モニタリング）のあり方の検討を行った。 環境アセスメントとは別に、遡河性魚種も含めた漁業対象魚種について、事業開始前から事業終了に伴う設備撤去及びその後の一定期間を通じた継続的な漁業影響調査（モニタリング）の実施を事業者に求めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 鮭の遡上の時期と稚魚を放流する2、3月に影響が出ないか心配だ。風車の影や低周波などの心配に加え、もし、風車が不要になった時はどうするのかも心配である。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁獲急減等、不測の事態に対する方策を予め定めるよう事業者に求めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 鮭資源が環境変化により衰退しないかとても心配している。風車の騒音振動などによる鮭への影響がないようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が行う環境アセスメントの配慮書に対して、風車設置に伴う鮭の遡上への影響について調査や予測及び評価を行うよう山形県知事意見を提出した。
	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に鮭のふ化放流事業等の内水面のことについては、十分に意見交換や情報提供されていないが、山形県は一步先を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月に鮭ふ化事業者セミナーを開催し、懸念事項について、海洋産業研究会から一定の見解を示していただいた。 引き続き県の水産関係部署と連携するとともに専門家の助言を受けながら検討を進めていく。

項目	意見・質問	対応の方向性（結果）
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 3列10基の風車が海面に建てば、遊佐の平野部ほぼ全域が風下になる。減農薬で作っている米などにも影響が出ないよう環境アセスで調べてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境アセスメントの評価項目に加えてもらうよう事業者に求めていく。 湧水については、環境アセスメント手続きが先行して進んでいる事業者の計画段階配慮書に対して、山形県知事意見として「鳥海山からの伏流水への影響について、調査や予測及び評価を実施すること。」を盛り込んでいる。
	<ul style="list-style-type: none"> 西風が病害虫を防ぐことで、減農薬・低農薬農業を可能にしているとも言われているので、風の影響についても調べてほしい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 遊佐海域の鳥類は、殆どが冬の渡り鳥だ。冬期間は殆ど船が出せないくらいの悪条件になると思うが、きちんとした鳥類の生息状況調査を行ってほしい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 風車が建つことで、海底湧水を破壊する恐れはないのか調べてほしい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 全国の沿岸部の湧水点について、海底湧水についての詳細な調査はあまりなされていないので、今後これについて調査されることがあれば海洋学的にも画期的なことだと思う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 長崎県五島市、秋田県などが、我々が懸念しているようなことを環境アセスメントの面でクリアし今のレベルにあるのか。例えば野鳥の問題など、法定協議会を設置している先行事例を皆さんに紹介していただければ有難い。 また、鮭についても未知の問題であるが、鮭の遡上で有名な新潟県村上市でどのような話し合いをしているのか環境アセスメント手続きを進めているのか情報収集し共有した方がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋田県由利本荘市沖における第2回法定協議会で「風力発電施設における騒音及び低周波音について」説明がなされているため、令和2年10月、部会委員に対して情報提供した。 先行する他県の環境アセスメントでは、重大な影響が懸念される場合に、追加的な環境保全措置を講ずることとしている。 鮭について新潟県では、第2回洋上風力発電導入研究会村上市・胎内市沖地域部会（令和2年7月14日）において、有識者のヒアリング結果を報告しており、この情報も部会委員に提供した。

項目	意見・質問	対応の方向性（結果）
景観	<ul style="list-style-type: none"> 30～50 基ぐらいの風車が建ち並ぶというのは誰も見たことがない。洋上風力への関心が高まり、景観に関する不安や心配の声もあるようなので、県が作成検討中のフォトモンタージュを早急に出してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> いずれは環境アセスメント手続きの中で、事業者が計画するイメージ図を示されることとなるが、遊佐部会や遊佐町地区別住民説明会等での意見を踏まえ、県としてフォトモンタージュ作成することを検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> 風車そのものが一つの景観として、今後の遊佐町の観光の一助になるような建て方もあるのかなと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度以降、地域振興の視点も加えながら導入に向けて検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 遊佐町に風車が11基あるが、地域住民から景観が悪いとの意見は殆どない。外国では風車を観光資源にしている国もあるのでそのようになってほしい。 	
港湾関係	<ul style="list-style-type: none"> ターミナル等が完成しているが、その中で酒田港の振興を積極的に進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田港を洋上風力発電の基地港湾に指定してもらうよう酒田市長から知事に対して要望があった。これを受け、知事と酒田市長から国に対してお願いをしている。今後も港湾担当部局と一緒に国に働きかけていく。 県において、港湾担当部局や漁港担当部局と連携しながら、港の活性化につながるよう、国や事業者に対し、県内の港湾・漁港を最大限活用するよう求めていく。 令和2年10月16日、関係機関（酒田市企画調整課、酒田市商工港湾課、国交省酒田港湾事務所、県港湾事務所、県空港港湾課、県エネルギー政策推進課）が一堂に会し、酒田港の基地港湾化に向けた情報交換を行った。
安全面	<ul style="list-style-type: none"> 今回（令和2年）の台風9号10号は、長崎県五島列島沖を通過したようだ。設置されている浮体式設備に被害がなかったか、分かれば教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎県五島市の関係者から聞き取りを行い、被害がなかった旨を確認し、令和2年10月、部会委員に対して情報提供した。

項目	意見・質問	対応の方向性（結果）
安全面	<ul style="list-style-type: none"> 風車の強度問題として、漁をする立場として安全安心して操業できるようにしてほしい。「安全安心な洋上風力発電」ということで進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 風車の要求性能、安全基準等については、「洋上風力発電設備に関する技術基準の統一的解説（令和2年3月版）洋上風力発電施設検討委員会」において、細かく基準を定め適合するよう求めている。
系統確保	<ul style="list-style-type: none"> 今回（令和2年度）の有望な区域に選定されなかったのは、系統の確保が大きな原因と思われるので、引き続き系統確保に向けて努力してほしい。 （令和2年度の）有望な区域の選定について、利害関係者の特定及び調整はかなり進んでいるということで、系統の確保が必要との指摘1点のみであった。系統の確保について、より一層の取組みを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 系統の確保については、県の取組みだけでは解決できないことであるため、国や事業者と調整を図りながら進めていく。 東北電力ネットワークによれば、現在、東北電力ネットワーク側から事業者に対して接続検討の回答をしており、各事業者が事業の検討を進めている段階とのこと。
地域振興	<ul style="list-style-type: none"> 折角作った電気がどこか他の地域で使われてしまうことにならないよう、確実にその電気が遊佐なり庄内で使われるということが非常に重要になってくる。その電気を使って物を作っているとか、漁業や加工をやっているといったストーリーを作ってPRできる面がある。そういったことも含めて地域振興の議論を地元の方とやってはどうか。 農業あるいは観光業などの遊佐町の地場産業についても、漁業協調策と同時進行で協調策を作っていたいただければ有難い。 今後進めていく中で、洋上風力と地域振興などについて、もう少し若い人が意見し、参画できる場を設けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度以降、農業や観光も含めた地域振興の視点も加えながら振興策を検討していく。 令和3年度以降の事業として、学生等の若い方々に洋上風力発電と地域振興策について、意見を出してもらおう場面を作ることを検討していく。
進め方	<ul style="list-style-type: none"> 今後も住民及び漁業関係者とのコミュニケーションを大切にしながら、有望な区域の選定に向けた努力をお願いしたい。環境アセスメント手続き、地域住民説明会などを確実に実施し、住民及び関係者等への理解と浸透を深めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一昨年、昨年に続き、町の意向も踏まえて、地区別住民説明会を10月下旬から11月上旬の3日間で、町内6地区（蕨岡、遊佐、稲川、西遊佐、高瀬、吹浦）で開催した。

項目	意見・質問	対応の方向性（結果）
進め方	<ul style="list-style-type: none"> 今後、有望な区域、促進区域に進むことになっても、町民の不安や心配が解消されるよう、引き続き丁寧な住民説明会を開催してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度以降も引き続き、丁寧な説明に努めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市の環境審議会と景観審議会で指摘されている部分が88,000部配布の地域新聞の中で取り上げられていたが、その疑念について、県として説明責任を果たしていただき、遊佐部会及び近隣市町の取組みが円滑になるように引き続き努力してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年10月、環境アセスメント手続きの疑義等について、酒田市の担当課に説明し、審議会委員の理解が得られるよう促した。引き続き環境アセスメント制度が正しく理解してもらえるよう酒田市と連携を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 30社の事業者による共同調査が行われているという独自の取組みをしてきたのは画期的なことである。 	<ul style="list-style-type: none"> 国に対して、本県の取組みをPRしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 町民の合意形成を図る前段として、地球温暖化対策など洋上風力発電がなぜ必要であるかを説明していくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化防止のために再生可能エネルギーの導入が必要であること、再生可能エネルギーの中でも洋上風力発電が今後の主力になるということなどを改めて、住民説明会や各種会議などで説明していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 有望区域に選定された後、法定協議会での意見とりまとめのプロセスがあるので、地元の要望をどう入れ込んでいくかしっかりと検討していくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> いただいたご意見・ご助言を今後の進め方に活かしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 懸念事項や課題を議論するというプロセスは非常にいいと思うが、同時にどういうメリットや嬉しさがあるのかというイメージを持ちながら、地球環境や2050年カーボンニュートラルが差し迫った問題であることを念頭に議論していく必要があると思う。 	